

## 2-1 県指定文化財

### ①記念物（天然記念物） オオダイガハラサンショウウオ

- 1 種別（区分） 記念物（天然記念物）
- 2 名称（員数） オオダイガハラサンショウウオ（地域を定めず）
- 3 所有者 無主物
- 4 所在の場所 県内一円
- 5 指定年月日 平成30年9月26日

#### （指定理由）

オオダイガハラサンショウウオ（学名：*Hynobius boulengeri* (Thompson, 1912)）は両生綱有尾目サンショウウオ科に属する小型サンショウウオである。明治44年(1911)、アメリカ人の海軍士官 Joseph Cheesman Thompson によって、奈良県の大台ヶ原で発見された。

成体の平均全長は約18cmであり、体色は青紫色を呈する。森林内の林床や溪流を行き来しながら、ミミズや昆虫などを食べて生活している。産卵時期は2月から5月にかけてであり、産卵場所は源流域のうち、水流のある場所に限られる。卵のうは円弧状の形態をしており、2個一対で石や倒木に産み付けられる。幼生にはえらがあり体色は茶褐色で、体に黒色の斑模様がみられる。幼生は1年から2年かけて溪流内で水棲昆虫を餌としながら生活し、9月ごろに変態して成体となるが、その際、えらが消失し、斑模様もなくなるなど、体の特徴が大きく変わる。天敵は蛇、魚である。他の小型サンショウウオ（カスミサンショウウオ、コガタブチサンショウウオ、ハコネサンショウウオ）と比較して大型であることや斑模様を持たないこと、分布域が限定されることなどの点で違いがみられる。

オオダイガハラサンショウウオは、かつては紀伊半島のほかに四国の剣山、石鎚山、九州の祖母・傾山系など、西南日本外帯に帯状に分布する種と考えられていたが、分類学的研究の進展によって5種に区分された。四国に生息しているものはイシヅチサンショウウオに、九州に生息していたものはソボサンショウウオ、アマクササンショウウオ、オオスミサンショウウオに独立させられ、紀伊半島に生息している種のみがオオダイガハラサンショウウオとなった。そのため、オオダイガハラサンショウウオは紀伊半島のみが生息している固有種ということになり、生息範囲の北・東限域は三重県であり、西・南限域は和歌山県となる。

県内では<sup>ごまだんざん</sup>護摩壇山、<sup>しらまやま</sup>白馬山、<sup>かきとうざん</sup>笠塔山、<sup>はてなしさんみやく</sup>果無山脈、<sup>おおとうざん</sup>大塔山などの河川源流域で生息が確認されている。また、近年はペットとして高値で売買されている状況が確認されており、捕獲による生息数の減少が懸念されていた。以上のことから、本種の学術的価値は高く、希少であることから、地域を定めずに指定を行った。



幼生



成体（玉井済夫氏提供写真）

- ② (天然記念物) **紀美野町のヒダリマキガヤ群**
- 1 種別 (区分) 記念物 (天然記念物)
- 2 名称 (員数) 紀美野町のヒダリマキガヤ群 (13 本)
- 3 所有者 個人
- 4 所在の場所 海草郡紀美野町毛原上他
- 5 指定年月日 平成 31 年 2 月 7 日

(指 定 理 由)

ヒダリマキガヤ (学名 : *Torreya nucifera* (L.) Sieb. et Zucc. var. *nucifera* f. *macrosperma* (Miyoshi) Kusaka) は常緑針葉樹であるカヤの一品種であり、種子の表面に左巻きの螺旋状沈線をもつものが多いことからこの名が付けられている。また、通常のカヤと比較して種子の長さが 3.3～5cm と大形であるという特徴がある。カヤの種子には脂肪分が多く含まれることから、かつては灯明用や食用の油を得るための重要な資源となっていたため、各地で栽培が行われていた。中でも、紀美野町は全国的にみても多数のカヤが群生している場所として知られ、希少なヒダリマキガヤも数多くあるとされてきた。このことは、『紀伊続風土記』に記載があるように、かつてこの地域が高野山と関わりが深い地域であったことに関係がある。冬季でも凍らないカヤの油は高野山では灯明用として珍重されたほか、食用の油としても価値が高かったことから、カヤの種子や油は高野山への貢納品となっていた。そのため、当該地域において、種子が大形なため効率的にカヤ油を収穫できるヒダリマキガヤが意図的に多く植えられていたものと考えられる。

平成 27 年度から平成 29 年度にかけて、ヒダリマキガヤの個体数を把握するため、紀美野町教育委員会により、カヤの分布調査及び種子の計測調査が約 190 本のカヤの木を対象に実施された。その結果、ヒダリマキガヤと考えられる個体が 25 本あることが判明した。また、確定的ではないものの、ヒダリマキガヤの可能性が高い個体も 20 本存在することが分かり、客観的な計測結果からみても、当該地域にヒダリマキガヤが高い密度で分布していることが明らかとなっている。

このように、「紀美野町のヒダリマキガヤ群」はこの地域に住む人びとが大切に扱ってきた結果、今日まで数多く残されてきたものであり、学術上の価値が高く、群としての希少性もあることから、和歌山県指定文化財〔記念物 (天然記念物)〕に指定した。



ヒダリマキガヤ



種子